



# タイの若手ドクターとの交流



麻酔科診療部長 土井 克史(どい・かつし)

浜田医療センターでは初期研修医や若手医師への教育にも力を入れています。今回島根大学で一か月間研修中のタイ国の若手の麻酔科医師が2日間見学に来ました。全員女性医師で、卒業10年目の医師(ChanattheeKitsiripant先生)をリーダーに3年目の3名(Sutthibenjakul先生、Saewong先生、Sengsai先生)でした。タイの南部のPrince of Songkla University所属です。手術室を中心に見学を行い、神経ブロックや全身麻酔などの臨床手技を熱心に学びました。研修医、ベテラン麻酔科医もタイでの麻酔や手術をはじめとする医療事情に関して興味を尽きず、長時間にわたって質問したりして交流を持ちました。また病院内隅々まで連れ出して、緩和ケア病棟、救命救急センター、集中治療室、新生児室などを見学して回りました。部長クラスの先生方に説明を求めましたが、英語は研修医がうまいからと逃げられ、各科で研修中の研修医に上手に振られてしまいました。午後は約1時間半のタイの麻酔医療について講義室でちょっとした講演をしてもらいました。事務系職員も含む多くの参加者があり、タイでの医療の様子、医師の教育システムについて話を伺いました。彼らの病院は、バンコクから離れたマレーシア国境に近いところにあり、治安があ

まり良くなく、銃で撃たれた患者が多く運ばれるとの話を聞きびっくりしました。とてもきれいでどかな南国のビーチのスライドからは想像ができませんでした。夕食に研修医と一緒に中華料理屋さんでお酒も入った交流会を開き、お互い少したどたどしい英語で日本とタイとの医療事情の違いや研究研修について盛り上がりました。近年では日本での医科大学での国際交流は盛んで、当院の研修医たちも外国の医師との交流の経験も多いです。しかし浜田医療センターに外国の医師が来院することは珍しくとても勉強になりました。当院も地域医療のためにも国際的な視野をもった研修体制を作りたいと思っています。

